



宍道みずうみ学園

宍道小学校 学校だより

宍道っ子



令和8年2月17日

文責 校長(石橋 裕子)

宍道小
ホームページにも
掲載しています。



なわとび集会 ~集団づくりとしての効果~

健康委員会が主催する「なわとび集会」を、2月6日(金)5校時に開催しました。

まずは、ひろば班に分かれ、班のメンバーで一斉に、大縄跳びを1分間半跳ぶ回数を競う、「大縄跳び みんなでジャンプ」に挑戦しました。このために、各班の業間休みの練習日を決め、練習をしてきました。

練習日には、時間になると素早く体育館に集合し、練習するところが宍道っ子のステキなところ
です。練習を重ねるにつれ、少しずつ回数も増え、子どもたちが積極的に声をかけ合う姿も見ら
れるようになってきていました。

そして、いよいよ本番。緊張気味の表情の子どももいましたが、跳びながら少しずつ笑顔が増え
ていきました



もう一つの種目は、「8の字跳び」です。これは、学級
対抗で回数を競います。体育の時間を中心に、各学級で
練習を積み重ねてきました。8の字跳びのコツを調べたり、
相談し合ったりと、練習を通して仲間意識も高まっていっ
たようです。



特に、6年生にとっては最後の

なわとび集会ということもあり、跳ぶ前に円陣を組む姿も見られました。

コツコツと練習を重ねることによって上達につながる「なわとび運動」ですが、なわとび集会に向か
っての練習が、子どもたちの心の絆を深めることにもつながったようです。

あいさつ運動

~「どこでもあいさつ」を目指して~

朝の登校時、生活委員会は自分たちで作ったタスキやハチマキを身に付
け、手作りの「のぼり」を持ってあいさつ運動に取り組んでいます。

「どこでもあいさつ」ができるようになってほしいと願っていますが、まだ
課題です。コミュニケーションの第一歩、心のキャッチボールとして、今後も
「あいさつ」の大切さを子どもが意識できるよう、支援していきたいと思
います。



教育活動についてのアンケート結果より

宍道小学校の教育活動についてのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

学校教育目標のもと、目指す子ども像（取組の重点）として、①「学ぶ意欲をもち、自分の考え（想い）をもつ子ども」②「自分を、人を大切に使う子ども」③「最後まで粘り強く取り組む子ども」を掲げ、その具体的な手立てを全教職員で協議、共有し、取り組んでまいりました。

その取組についてのアンケート項目（質問内容）は、児童向け、保護者向けとして表現を変えておりますが、教職員自己評価と合わせ、三者（児童・保護者・学校）のアンケート結果を比較して、以下のとおりまとめて示しております。

※アンケートの回答は、各項目の到達度について4:「あてはまる」、3:「だいたいあてはまる」、2:「あまりあてはまらない」、1:「あてはまらない」とし、4及び3の回答の割合のポイントを表しています。この結果については、2月20日の学園教育推進会議で委員の皆様にご検討いただく予定です。

	項 目	4 及び 3 の 回答割合		
		教職員	保護者	児童
1	【学力向上の取組として】基礎・基本を定着させるための指導を充実させる。	87.6	93.6	88.5
2	子どもが主体的に思考し、表現する授業づくりをする。	76.0	96.8	58.0
3	図書館を活用した学習活動の定着を図る。	62.5	51.0	63.8
4	家庭学習の充実を図る。	81.3	94.5	90.1
5	全ての子どもにとっての居場所のある学級づくり学校づくりを進める。	83.4	94.5	90.1
6	全教職員による子ども（児童）理解と適切な支援を行う。	94.4	91.1	75.6
7	健全な心身の成長の基盤となる体づくりや基本的生活習慣の定着を図る。	88.9	56.7	78.4
8	いじめ問題に組織で素早く誠実に対応する。	88.2	81.5	78.1
9	学級活動を基盤とした特別活動や、効果的な集団活動の充実を図る。	87.6	97.2	90.2
10	地域の特徴等について体験的、探究的に学ぶ内容を工夫する。	100	97.9	81.1

【アンケートを受けて】

- ◆ 毎月の漢字会・計算会を全校で取り組むことの一定の成果はあるが、定着のための指導の充実のため、学年部や学校全体での見直しや検討を行っていききたい。
- ◆ 図書館活用教育推進のため、その土台となる児童の読書へ親しむ習慣づくりへの工夫を進めたい。
- ◆ 授業と家庭学習が結びつくように、宿題の出し方や内容を仕組んでいく必要がある。
- ◆ 人間関係に不安を感じている児童の思いを全教職員で共有し、全ての児童が安心して学校生活を送ることができるように、現状に対する改善のためのケース会議等を定期的に行っていくことは継続し、より効果的な支援方法について検討する。
- ◆ 教育相談週間だけでなく、担任以外の教職員にも日頃から気軽に相談できる窓口の周知方法等検討し、今後、発達段階に応じた児童の困り感を受け止める方法を工夫する。
- ◆ 特に家庭において、メディアと触れ合う時間が多く、心身の健康につながる生活リズムがとりにくい傾向にある。家庭と連携した取組方法について、PTA とも協議しながら効果的な方法を検討する。
- ◆ 幼小の連携について取り組んできたが、小中の学びの接続についても検討する機会をもちたい。お互いの授業を見て協議する場が不足していることも課題である。
- ◆ 以前からの PTA 活動の見直しにより、今年度削減できたものもたくさんあった。理事・評議員との協議を計画し、負担を減らしながらも、学校教育に必要な内容を精選できるようにしていきたい。
- ◆ 保護者からの意見で、ホームページ更新が少ないとの意見があった。日頃の些細な活動から更新できるよう努力したい。

数値による回答以外にも、ご意見をいただきました。内容について全教職員で共有し、来年度に向けて検討いたします。

家庭でのお子様の様子で気づかれたこと、そして地域での様子等、様々な角度から子どもたちを理解し、支援していきたいと考えます。今後とも、貴重なご意見をどうぞよろしく願います。